

2015 CSR 報告書







餃子の
王将



餃子の 大口駅前店



平素は格別のお引き立てを賜わり厚く御礼申し上げます。
昨年に続き第2号のCSR報告書を発行することができました。まずは「3日坊主」にならなかったことをホッと安堵するとともに、日々の積み重ねがこのような形になることに感慨ひとしおです。

この一年は社員が介護に直面するという事態に遭遇し、会社として社員の生活をどのようにサポートしてあげられるのかを真剣に考える機会に恵まれ、人事制度の大幅な見直しを実施することができました。

こうして私たちの活動をご報告できますのも、偏にご支援・ご協力いただきました皆様のご厚情の賜と心より感謝申し上げます。

至らぬ点が多々あることは自認しておりますが、是非本書をご一読いただき、忌憚のないご意見、ご質問、叱咤激励など賜われれば幸いです。

2015年11月

株式会社協進印刷

代表取締役社長 江森克治

CONTENTS

- 3 座談会 インターン生×江森克治
「仕事、夢、不安、そして未来へ」

- 9 CSR 取り組み報告
- 10 コンプライアンス／情報セキュリティ
- 12 環境
- 13 品質
- 14 雇用・労働安全
- 15 社会貢献・地域志向
- 17 情報開示・コミュニケーション
協働事業報告
- 19 ぼうさいえほんプロジェクト
- 20 タツミのえほん部プロジェクト
- 21 かけしジャーナルプロジェクト
- 22 各種認定

[座談会]

2015 年度

株式会社協進印刷

インターン生×江森克治

仕事、夢、不安、そして未来へ



糸谷泉美さん

横浜デジタルアーツ専門学校
総合デザイン科3年
横浜市出身

丸山裕平さん

横浜市立大学
国際総合科学部4年
宮崎県宮崎市出身

赤谷咲栄さん

横浜市立大学
国際総合科学部4年
静岡県浜松市出身

江森克治

株式会社協進印刷
代表取締役社長
横浜市出身

今年度協進印刷でインターンシップを経験した3人の学生と弊社代表江森克治が座談会を開きました。就職、仕事、恋愛、結婚…未来への期待と不安、二十代が始まったばかりの若者が率直な気持ちで語ってくれました。JO13号と併せてお読みください。

江森：まず皆さんにとっての「仕事観」についてお聞きしたいと思います。

丸山：もちろん生きていくためにお金を稼ぐ手段というのがありますが、仕事を通していろいろな人と出会ったり、いろいろな部

署での仕事を経験していくうちに、自分自身の成長につながるものというか、仕事を通して自分が大きくなるための手段というふうに考えています。

赤谷：私にとっては、私の理想とする姿を作り出すものかな〜って考えています。私の理想というのは、働きながら結婚して、子どもを産んで、子育てして…。おしゃれなところでおしゃれな仕事しながら、おしゃれな生活をする事なんです(笑)。そういう生活を続けていくためのツールというように見えています。

糸谷：私は仕事をするのは生きていく上で当たり前のことなのか



などと思っています。私はアルバイトもあまりしたことがなくて、最近介護施設でボランティアを始めたんですけど、やはり働いていないと自分の世界が狭くなると感じています。人と関わることでも自分も成長できるし、私は専門職なので、自分の能力も活かすことができると思います。

江森：アルバイトしてなかったんだ、いまどき珍しいんじゃないですか。

丸山：僕は飲食店でアルバイトをしています、本当にいろいろなお客様が来るので、こういう人にはどう対応すればいいんだろうなどと考えながら仕事をするのは、とてもいい勉強になります。

江森：赤谷さんのライフスタイルを作るツールのひとつというもの、かなり斬新な意見ですね（笑）。

赤谷：ちょっと甘いかな～ってわかってはいるんですけど…（笑）。実際社会に出たら辛いこともあるだろうし、思うようにはいかないことが多いんでしょうけど、経験を積んで理想に近づけたらって思います。

江森：「オンとオフ」なんて良くいいますが、仕事とプライベートって分けて考えてますか。

赤谷：私はどちらかといえばひとつと考えています。理想の生活を実現するのが仕事という感覚です。

丸山：僕は完全に別ですね～。平日は仕事、土日は休みとはっきりさせたい方です。

糸谷：私はくっついてる方ですね～。

江森：そうですか～、男女の違いもあるのかな～。まあ丸山君の職場はあまりくっつき過ぎると大変なことになると思うけど（笑）、基本的にはくっついているのが健全でしょうね。アタマで思っていることとカラダでやらなきゃいけないことが、逆方向を向いていることが、自分の中でうまく消化できているうちはいいけど、これが統合できなくなる病気が統合失調症というわけで、やっぱりやりたいことがやっつることになっていかないと、最終的には続かないんじゃないかな。だから、自分の仕事は自分のやりたいことであり、私生活とも一体化しているという感覚はできるだけ持った方がいいと思いますね。

丸山：江森さんは働く前からからそういう感覚を持っていたのですか。

江森：全然（笑）。私も大企業にいたので、仕事とプライベートははっきり区別するものと思ってたし、まわりもそうだったからサラリーマン時代は気がつかなかったんですけどね。でも自分で会社やるようになったら、やっぱりそこはひとつにしないと無理だよ、自分の会社なんだし（笑）。とはいえ、最初の頃は父が社長をやっていて自分が経営していたわけではないから、父のやり方とか、考え方とか、イヤだな～って思うことばかりでしたよ。でもそれだと成果でないから、なんとか自分の好きなこと、打ち込めることに自分の仕事を重ねるように、いろいろ工夫しましたね。今となってはやりたいことしかやってないけどね（笑）。そういう

意味では赤谷さんのような生活中心の考え方というのも悪くないと思いますね。

赤谷：はい、なので5年は同じ職場で耐えようって決めてます。

江森：5年？いやいや、5年と言わずもっとがんばってよ～（笑）

丸山：友達の女の子で同じこと言ってる人いますよ。5年経ったら会社辞めるって言ってます。

江森：なんで5年なの？5年後っていうと27、8歳ですよ。

赤谷：やっぱり結婚を意識するんだと思います。実際にはそのときになってから考えるんだと思うんですけど、私は地元が静岡なので、地元に戻って一軒家を建てたいとか…。たとえこのまま横浜にいても、家庭を大事にして生きていきたいなと思います。ですからまずは5年がんばって、子育て後の復帰に備えようと思っています。

江森：出産・育児によって女性のキャリアが途絶えてしまうこと、再就職がなかなか難しいことが社会問題になっていますが、子育て後のビジョンが明確にあるなら、一旦会社を辞めて育児に専念というのもアリだとは思いますが。

赤谷：お金を稼ぐことに頓着ないというか、そんなにお金はなくても好きなことして生きていければいいかな～って思います。でもだからってヒマになるのもイヤなので、まずは5年働いて結婚してから考えます。

江森：子育て終わったら独立開業みたいな明確なビジョンがないのであれば、その5年間は受け身ではなく、攻めていった方がいいでしょうね。中途半端に5年務めて、子どもができたからとりあえず辞めるみたいなことだと、キャリアとして何も残らなくなってしまう。大学の就職課の方の話を知ると、女子学生の場合は結婚を考えて就職活動をしている人がかなりの割合にいるそうですが、辞めることを予め決めてしまうのではなく、たとえ結果として退職することになったとしても、結婚・出産まではがむしゃら

にがんばるという気持ちを持って欲しいですね。そうやって仕事に打ち込んでいたら、5年後には会社のエースになっていてとても辞めるなんていえる状況じゃなくなってるかもしれないし…。

赤谷：そうするとその会社が女性に対してどれぐらい働きやすい環境を作ってくれているかって、女性にとってはとても大事なポイントになりますね。会社説明会ではなかなか見えてこないところなんですけど…。

江森：制度としてはあっても、実際にいまの社員さんが育児休暇をとれているのかというようなことは、聞かなきゃ出てこない情報だから、どんどん質問した方がいいと思いますね。

赤谷：でも、そういうこと聞くとマイナスの評価をされるんじゃないかと思ってしまって、なかなか聞けません。

江森：そういう質問をする人をマイナス評価するような会社は、女性の働きやすい環境を整備しようなんて考えない会社だから行かない方がいいよ（笑）

丸山：最近では女性限定の会社説明会を開催している会社も増えて



来ているようですよ。人事の人ではなく、女性社員の方が女性ならではの不安や疑問に答えられるそうです。

赤谷：そういう機会がたくさんあると安心ですね。

江森：糸谷さんはひとまず辞める気はないというか、定年まで働き続けるんだと決めているそうですが、どうしてそう思うようになったのですか。

糸谷：元々自分の中に漠然とそういう気持ちがありました。働くのが当たり前というか…。私はいつも何かしているのが好きで、学校の課題も家に持ち帰らなくても終わるのに、わざわざ家に持ち帰ってやったりとか、がんばっていると実感できることが好きなんです。あとは、保育士としてずっと働き続けている母の影響もあると思います。小さい頃から働く母の姿を見ているので、それが当たり前と思っているところはあります。

丸山：うちの母も働いています。

赤谷：うちは専業主婦です…。

江森：育った家庭環境というのも仕事観には大いに影響があるのでしょうか。赤谷さんのお母さんは仕事に関して何か言っていますか。

赤谷：特には言いませんが、「浜松に帰って来ないの～？」って良く言われます。あー、帰って来て欲しいんだなって思いますね(笑)。

江森：お母さんの気持ちとしてはそうでしょうね。でもこれからは働き方が多様化してテレワークも増えてくるので、例えば本社は東京なんだけど、浜松サテライトオフィスがあるとか、在宅勤務が認められているとか、そういう可能性はありますよ。

丸山：赤谷さん、社内でそういう制度立ち上げちゃいなよ！

江森：これから労働人口が急激に減ってくるので、どの企業にとっても人材確保は至上命題です。会社にとって必要な人材であれば、様々な働き方を認めてくれる可能性は高いですよ。

赤谷：そんなふうに頼られる存在になりたいですね。

江森：話は変わりますが、これから20年、30年先の日本をどうしたいと思いますか。どうなって欲しいかというのは他力本願な感じがするから、あえて「どうしたいか」とききますが。

糸谷：私はもっと人とつながりが感じられる社会になればいいと思います。いまはインターネットが発達しているから、直接会わなくてもコミュニケーションはとれるのですが、友達がただのネットの人みたいになっているところもあると思うんですね。電車に乗っていてもみんなスマホを見ていて、近くにお年寄りや妊婦さんがいても気がつかないし、そもそも人に関心がないような気がして、それは良くないなと思っています。

江森：人と人とのつながりが弱くなっている、そしてそれは良くないことなのではないかという指摘ですが、赤谷さんどう思いますか。

赤谷：私もそう思います。そもそも私も人に関心ないかなって少し思いますし(笑)。電車に乗っていておばあちゃんに席を譲る人がいると「えらーい！」みたいな雰囲気になるじゃないですか。でもそれって普通のことなのに、おかしいですよ。

糸谷：そうですね、席を譲ったりする人が少なすぎて逆にやりにくいなって感じます。勇気がいるというか。

丸山：何か問題が起きたときに、それを気軽に相談できたり、助けてくださいと言える場があると、もっとつながりができるんじゃないでしょうか、コミュニティカフェのような。

赤谷：心に余裕がない人が増えているのでしょうか。





駅でもせかせか急いで歩いて、携帯ばかり見ているし、時間に囚われているかなと思います。それは先ほどのCSRの話でいえば、就業形態とかにも問題があるかもしれませんが、そうやって時間に余裕がないから自分のことしか考えられなくなってしまうのかなって思います。

江森：時間に余裕がないというのは本質ついてるかも知れませんね。

糸谷：やっぱり日本人で働き過ぎなのかな～って、みんなの話を聞いていて思いました（笑）。海外の話など聞くと、休みも多くてとても余裕がありそうですよね。でも日本人は、私の母も週休1日のときも多いですし、サービス残業などもあるみたいで、そういう働く環境も心に余裕が持てない原因のひとつになっているのかなって思いますね。

江森：丸山君は30年後にはどんな日本にしてくれるんですか。

丸山：僕はみんながもっと希望が持てる社会にしたいと思います。今は少子高齢化とか、これからどうしたらいいんだろうと不安になることが多いんですけど、30年後には楽しい未来を想像できる

ようにしたいです。

江森：でも人口は確実に減って行くし、少子高齢化で労働人口も減って行くから基本的には経済は衰退する方向ですよ。経済が衰退するのに希望が持てるというのはどういうこと？

丸山：確かに人口は減って行くと思いますが、では今の1億2千万が日本にとって適正な数なのかという、それはわからないですよ。9千万や8千万の方が幸せかもしれません。規模とかではなく、先ほどから話の出ている心の余裕みたいなものを、みんなが評価するようになれば良いのではないのでしょうか。企業がCSRを推進することも心の余裕につながっていくと思います。

赤谷：私はもっと社会に関心を持つ人が増えたらいいなと思います。今は小さいときから勉強勉強で、いい学校やいい会社に入らなければダメというような風潮があると思うんですけど、そうではなくて、小中学生の頃から社会に触れたり、感性を磨く機会を持つことで、他人に対しても思いやりが持てるし、自分も社会の一員なんだっていう自覚を持つことでできるんじゃないかと思います。

糸谷：勉強ができるかできないかで、学校でもすごく区別されませんよね。私が全然勉強ができなかったからかもしれませんが、そのことはずっと疑問に思っていました。もっと人それぞれにいいところがあるのにつて。私は絵を描くことが好きだったし、親にも勉強しろなんて言われたことがなかったので、学生時代に自由な時間を過ごすことができて良かったと思っています。

丸山：すごい、うらやましい！（笑）。僕は普通科なんですけど、なんていうか特にやりたいことがないから普通科だったのかなって…。

江森：勉強ができなくても、何か好きなこととか、得意なことがあれば「自分にはこれがあるから、まあ勉強できなくてもいいか」



と思えるというのはあるでしょうね。子どもに「自分にはこれがある！」と自信をもって言える何かを育ててあげることも大切なことのように思います。

糸谷：中高生ぐらいの人たちに働くことへの関心が、もっとあってもいいんじゃないかなって思います。中学のときは高校に行くために、高校のときは大学に行くために、私の場合は好きなことがあったので、絵を勉強したいとは思いましたが、その先にどんな職業があるのかについて、あまり関心がなかったんです。でも今思えばそれはとてももったいないことだなと思います。

江森：中学のとき職業体験学習はありましたか？

糸谷：なかったんです～。

丸山：僕はありましたよ。子育てで支援のNPOに行きました。職業体験といってもただ子どもと遊んでただけですけどね（笑）。でも、NPOという存在を始めて知ったのはあのときでしたし、こういう仕事もあるんだと思ったのをよく覚えています。

江森：そうですか、覚えていてくれるんだね。それは受け入れる

側としてはうれしいなあ。そうなる则キャリア教育ってやっぱり大事なんだねえ。

丸山：そうですね。学校では絶対に会えない人たちに会えますし、短い期間ではありますが、中学生には結構影響力あるのではないのでしょうか。

江森：最近の若者は恋愛を面倒だと感じているなんてよくテレビや雑誌で取り上げられてますけど、実際はどうですか。

丸山：いや、そんなことないんじゃないですか。それはテレビが言ってるだけだと思いますけど。少なくとも僕のまわりにはそういう人はいませんね。

江森：結婚も同じように言われているところがあるようですが、みんなの結婚観についてきかせてください。

丸山：結婚はしたいですね。1人で生きて行く自信がないというのがあって、精神的にも支えてくれる人が欲しいですし、子どもがいれば仕事のモチベーションにも繋がると思います。

赤谷：一緒にいて苦にならなくて、生活リズムの同じ人と生活を共にしていけたらって、孫ができれば両親も絶対喜ぶますし。できるだけシンプルにモノをたくさん持たずに、好きな人たちと一緒に暮らせたなら幸せだなと思います。あとは、夫に対して人間力で劣等感を感じたくないで、できるだけ社会に関わって人間力を高める努力は続けたいです。

糸谷：将来自分が一人になったら耐えられない気がするので、やっぱり結婚はしたいですね。では仕事は辞めないで続けて行きたいです。

江森：今日はとても楽しい話を聞かせていただきました。皆さんの話を聞いて、自分の力で人生を切り拓いていこうとする前向きな意欲が感じられて、皆さんのような若者がいる限り、日本の未来は明るいと希望を持つことができました。社会に出て大いに活躍してくれることを期待しています。ありがとうございました。

CSR取り組み報告

2015年度の主な取り組みについて次ページより報告します。取り組みは全印工連CSR認定制度で規定されている8つのCSR項目に従って分類されており、右上にカテゴリーを表示しています。

CSR基本方針

株式会社協進印刷全社員は、自らが地域社会の主体であるとの自覚のもと、地域社会および地域経済の重要性を認識し、ステークホルダーからの期待に応え、本方針に基づき本業を通じて社会の持続的発展に貢献することを約束いたします。

本業を通じた社会への貢献

進取の精神と不断の努力により培われた技術力を基盤として、誰もが安全かつ便利に利用できる良質な製品・サービスをお客様に提供することにより、人びとの心と心が通い合う優しさ溢れる社会の実現に貢献します。

環境保護活動の推進

持続可能な社会の実現に向けて、全ての事業活動において環境に与える負荷の低減を目指します。また環境対応製品の製造を通じて、環境保護への啓蒙活動を推進します。

社会貢献活動の推進

共に地域に暮らす市民として、地域住民との信頼関係を構築し、文化芸術振興および青少年育成に重点をおいた社会貢献活動を積極的に推進します。

働きやすい職場作り

働くこととは公に奉仕することであるとの認識のもと、地域住民を積極的に雇用し、全ての社員にとって、働きやすい、やりがいのある職場作りに努めると共に、意欲ある社員の豊かな人生を応援します。

法令遵守

法治国家における責任ある市民の一員として、事業活動における各種法令の把握に努め、それらを遵守します。

継続的改善による取り組みのレベルアップ

毎年度当初にステークホルダーニーズの析出を実施し、経営と一体化したCSRの目的および目標を定め、マネジメント・システムの運用を通じて改善の努力を継続します。

2014年8月改定

コンプライアンス

全印工連 CSR 認定 ツースター認定を取得

業界団体としては日本初の本格的 CSR 認定制度である全印工連 CSR 認定制度で、ワンランク上位のツースター認定が今年度よりスタート。第1回ツースター12社が認定され、弊社も取得することができました。本制度は日本印刷産業連合会設立30周年記念表彰で特別賞を受賞するなど、業界内外から注目されています。

CSRで信頼の絆を

協力会社向け CSR セミナーを開催

企画・デザインから梱包・配送まで、印刷には多くの工程があるため、協力会社のサポートなくしては仕事が完結できません。サプライチェーン全体を通じてコンプライアンスを維持していくために、今年度初の試みとして、協力会社向け「CSR入門セミナー」を開催しました。弊社代表江森が講師を務めた90分の講義のあとには懇親会も開催し、ご参加の皆様と持続的な協力関係を確認しあいました。

AJPIA took Two Star approval, the CSR approval.

Two Star approval that is the CSR system AJPIA approves, the first genuine CSR approval system in the business group started in this year. As the first Two Star, 12 companies were approved, and we were one of that. In this year, we got a special prize in JFPI's 30th anniversary award, so we were concerned inside and outside the industry.

To get the bonds of trust, we hold the CSR seminar for the cooperation companies.

We can't finish works without the supports of cooperation companies because of the printing has many processes, that is planning, design, packaging and delivery. In order to maintain the compliance through the whole of supply chain, we held the seminar for the first time in this year. After Emori, our representative manager, gave a lecture for 90 minutes, we held a social gathering to confirm the sustainable cooperative relationships with the participants.



基本中の基本。日々の積み重ねを大切に

今年度取得した全印工連 CSR ツースター認定の現地審査の際「5Sの不徹底」を指摘され、まずは3Sから取り組んでみてはどうかとのご指導をいただきました。そこで毎週月曜の朝礼後に「5分間5S」を実施。社員全員の美化意識向上をはかるため、毎回実施場所を変え、仲間の仕事場所の状況を知り、一緒に清掃することでコミュニケーションや思いやりにも繋がることを期待しています。

マイナンバーにもいち早く対応

お客様の大切な情報をお預かりすることが多い印刷業。個人情報保護を含む情報セキュリティ全般に対応すべく、神奈川県印刷工業組合が運営する認定制度「PISM」を、2013年に取得し運用してきました。来年1月から運用開始になるマイナンバー制度についても、いち早く社内運用体制を整備。社員をはじめ家族のマイナンバー収集から破棄までの適切な運用ルールを定め文書化しました。



Basic of basics, valuing the continual effort.

When the examination of CSR Two Star approval went on, we were pointed out “to be halfway of 5S” and advised that it is better to take 3S first. Then, after every morning greeting on Mondays, we carry out “5 minutes 5S”. In order to advance employee the awareness of beautification, we change the place every time and know the conditions of work places of colleagues. Moreover, we expect that cooperative cleaning make communications and consideration.

We correspond the My Number without delay.

We often take care of the customer information. In order to correspond the information security including personal information, we have operated “PISM”, the approval system Kanagawa Printing Industry Association managed, since 2013. We prepare to correspond the My Number system that will start in January, 2016 without delay. We decided the rule from collecting my number from employee and family to abandon.



環境

少しずつ。でも、確実に

私たちは、グリーンプリンティング認定、クリオネマークの取得運用、再資源化、省エネ、廃材再利用、お客様への環境印刷のご提案など、さまざまな環境活動に取り組んでいます。本年度は紫外線や赤外線をカットする遮熱フィルム「IQue」を導入。室温上昇が抑えられた効果もあって、7～9月の電気使用量を昨年比13.6%削減しました。

美しくスマートに

環境活動にプラスワンのアイデア

環境活動は、「お金がかかる」「時間がかかる」などということをよく耳にします。もっと手軽に、「ついで」にできる環境活動はないか。私たちがずっと議論しているテーマですが、今年ひとつのアイデアがカタチになりました。難しい色出しの印刷時には、「試し刷り」のために多くの紙を廃棄する（損紙）こととなります。そこでその損紙を封筒として再利用することを提案させていただきました。デザインにも妥協しない完成度の高い「リユース品」に、高い評価をいただいています。

2014年度CO₂および産業廃棄物排出量・リサイクル量

排出

項目	排出量	前年比
CO ₂	21.0t	71%
廃油	0.24t	83%
廃アルカリ	0.08t	80%
廃プラ	0.11t	157%
事業ゴミ	1,440ℓ	45%

リサイクル

項目	排出量	前年比
紙	12.1t	51%
アルミ	1.0t	59%

Little by little, certainly.

We are working on many kind of environmental activity such as recognition of green printing, get and use of Kurione mark, recycle, energy saving, waste reuse, proposing customers to environmental print, and so on. This year, we introduced “IQue”, the thermal barrier film that cut infrared and ultraviolet. Thanks to keep down the room temperature rise, electricity consumption decreased 13.6% in July-September compared with last year.

To be beautiful, to be smart.

Added idea into environmental activity.

It is often said that environmental activity costs “money” and “time.” Is there an environmental activity that can do “in passing”? This is the theme we have been discussing for a long time to form from one idea. When it print used difficult color, many sheets of paper are wasteful by “test printing.” Then we suggested a plan to reuse the waste paper as envelopes. A lot of people admire the “reuse products”, which are high quality and don't compromise on design.



「色」という感性を共有するために

色は光が物体に反射したときの波長の違いを、人間の目と脳が識別することによって生まれます。それだけに色の感じ方は十人十色。ましてそれを紙の上で再現するとなると…かなり難しそうと想像していただけるでしょうか。そこで協進印刷では、お客様の表現したい色を理解し共有するため、「印象」をテーマにしたヒアリングを実施。最新のテクノロジーを駆使しつつも「感性」を忘れない。私たちの信念です。

みんなが笑顔になる仕事づくり

展示会、文化祭、記念式典…等々、最終的な成果物としての印刷物にはプロジェクト全体の情報が集約されるため、印刷物制作のプロセスを適切に管理することで、プロジェクト全体の最適化をはかることができます。私たちは情報媒体の制作管理を通じて、プロジェクトメンバーのコミュニケーションのお手伝いもしています。場づくり、コトづくり、人づくり。そんなことも私たちの仕事です。



To share sensibility of “color”.

Human eyes and brain recognize the difference of wavelength that light reflected off an object as the color. It means so many men, so many colors. Much more reproducing it on the paper...you find it very difficult, don't you? Then, in order to understand and share the color customers want to express, we carry out hearing that themed “impression” and don't forget “sensibility” even though use latest technology. It is our belief.

Work making that bring smiles to everyone.

At exhibition, school festival, memorial ceremony, etc. printed matters as the last result are summarized the information of the whole of the project. So we can make it the best to manage the process of making print properly. Through this effort, we too help project members' communication. Place making, thing making and relationship making. Also such a thing is our job.



雇用・労働安全

いつまでも働きやすい会社に

今年度最も力を入れた取り組みのひとつが、多様な働き方に対応できる就労環境の整備です。社会保険労務士ご協力のもと就業規則の見直しを実施。「短時間正社員」の区分を増やすと同時に、所定外労働の免除や時間外労働の制限等が法定よりも手厚くした規程類を整備。正規、非正規、性別に関係なく、ワークライフバランスを向上しやすい制度が整いました。

Aiming the company you want to for good.

One of the most earnest activities we have done in this year is making the employment environment that permits various work styles. We reconsidered working regulations supported by a labor and social security attorney. We added to classifications of employees and developed the regulations of work times that free overtime work and are softer than the lows. We achieved the systems that are easy to raise the work balance regardless of regular or irregular employment and gender.



全ての若者たちに働く楽しさを知ってほしい

地元の高校、大学などの教育機関は、私たちにとっては大切なお客様、最も重要なステークホルダーと言っても過言ではありません。そんな大切なステークホルダーにどんな貢献ができるのだろうか…。議論に議論を重ね、私たちが辿り着いた答えは、私たちも「教育」に参画すること。地元教育機関の皆さんと力をあわせて、子どもたちの学びと育ちをサポートすることでした。そんな思いから、中学生、高校生、大学生、専門学校生、第二新卒生、外国人、障がい者、内容も職業体験的なものから実践的なものまで、さまざまなインターンシップを積極的に実施しています。

今年度は、横浜市就職サポートセンター、横浜デジタルアーツ専門学校、横浜デザイン学院、横浜市立大学、神奈川県立産業技術短大、鶴見総合高校、神奈川中学校、緑が丘中学校、横浜女学院中学校、就労支援センターひゅーまにあ川崎、台湾貿易センター国際人材育成センターなどから、20名を超える研修生を受け入れています。

ひとりでも多くの若者が、個性を活かし、心からやりがいを感じ、自己の成長と幸福につながる職業に就いてもらいたい。私たちの心からの願いです。

We want all young people to know pleasure of work.

It is no exaggeration that educational institutions, such as high schools and colleges in our hometown, are the most important customers and stakeholders for us. What can we do for them...? By a lot of discussion, the conclusion we reached is we too participate in "education". Supporting learning and growth of children to cooperate with educational institutions.

By such thought, we actively carry out various internships that is from experiential to practical for middle school, high school, college, vocational school, recent graduate, foreigners and physically challenged.

In this year, we accepted over 20 trainees from Yokohama Employment Support Center, Yokohama Digital Arts Vocational School, Yokohama Design College, Yokohama City University, Kanagawa Industrial and Technical Junior College, Tsurumi Comprehensive High School, Kanagawa Middle School, Midorigaoka Middle School, Yokohama Jogakuin Junior High School, Employment Transfer Support Humania Kawasaki, Taiwan Trade Center International Trade Institute and so on.

We want as many young people as possible to get job that they take advantage of the personality, sincerely feel fulfilling and lead their growth and happiness. This is our wish.



障がい者の社会復帰に協力したい

学生へのキャリア教育支援と並行して、障がいを持った方の社会復帰を支援するために、就労体験の受け入れを始めました。今年も川崎の就労支援施設から統合失調症を抱えた方を受け入れ、初めての体験で緊張しましたが、とても喜んでいただきました。また社長を含む2名が福祉力検定3級に合格。障がいへの理解に努めています。

就労継続支援B型作業所の活用

製品の封入や梱包などの軽作業の一部を、市内の就労継続支援B型作業所をお願いしており、依頼先も少しずつ増やしています。多様な働き方に対応できる社内整備を進める一方で、障がい者やマイノリティが活躍できる社会の実現に向けて、微力ながら協力していきたいと思っています。

We want to contribute physically challenged to rehabilitate in society.

In parallel supporting carrier education to students, we started offering working experiences in order to support physically challenged people to rehabilitate in society. In this year, we accepted a schizophrenic man from employment transfer support facility in Kawasaki. It was nervous because of first experience, but he was pleased. Two employees including the president passed the third grade of welfare examination. We cultivate a better understanding handicapped.

Making good use of handicapped person work place.

We ask handicapped person work place in Yokohama packing products, and gradually increase the number. On the other hand promoting the environment that corresponds various work styles, we were going to contribute handicapped and minorities to succeed in society to the best of our poor ability.



あなたの喜ぶ顔が見たくて続けています

毎月10日を「ありがとうの日」として、ステークホルダーの皆様へ感謝の気持ちを込めて、季節に合わせたオリジナルグッズや、園児向けのレターセットなどの様々な企画をしています。徐々にクオリティも上がってきており、販売しないのはもったいないというお言葉を頂戴することもしばしば。これからも「ちょっと嬉しい」をお届けしてまいります。



We want to see your happy face.

On 10th of each month, we thank to plan the original goods according to the season, letter sets for children and so on for stakeholders as “the thanks day”. Gradually, the quality become better and we were often said that we should sell them. We send “some pleasure” in future.

「ありがとうの日」を始めて4年目になります。立案に慣れないうちは、何をやったらいいんだろう、何が喜ばれるんだろう、と難しく考えてしまい悩むときもありました。でも一番大切なのは「誰のために?」「何がしたい?」「何ができる?」のかだということに何度目かで気づくことができ、いつからか担当月が楽しみにになりました。

10月のありがとうの日に担当が回ってきた時のこと。10月といえば衣替えの季節ですが、タンスから出したばかりの衣類に袖を通すと眉間にしわが寄ってしまうほど、私は防虫剤の臭いがきらいです。その時にこの臭いが苦手なのは私だけではないのかも、赤ちゃんにも刺激が強いのではないか、もっと人に優しい防虫剤ってないのかなと思い立ち、アメリカ杉を原材料とした100%天然素材で化学薬品に敏感な人にも優しい防虫剤を見つけました。

さてメインは決まりましたが、これにどうやって“協進らしさ”を加えるかが腕の見せ所です。その形からキャンディーを連想し、駄菓子のイメージで包装したいと思い、パート社員の“ラッピング先生”と試行錯誤。白紙と色上質紙の2枚を重ねて、色上質紙がチラっと出ること上品な、まるで京菓子のような仕上がりになりました。その数およそ60個を「ねえ、これだめ?色出過ぎ?」とか「あ、ちょっと切れちゃった」など女子社員みなでおしゃべりしながらクルクルクル包みました。ありがとうの日は、こんな時間も楽しみのひとつなのです。

この「ありがとうの日」は、もらう側だけでなく、私たちわたくし側も嬉しい気持ちになれ笑顔になれます。毎月この企画を楽しみにしてくれている方々にこれからも感謝の気持ちを伝え続けようと思います。

総務グループ 真島愛子

相互理解のために

CSR マネジメントシステムでは、最終的に自社の取り組みをステークホルダーに評価していただくことでPDCA がまわっていきます。このことから私たちはコーポレートコミュニケーションを大切にしています。活動報告誌「J O（ジェイオー）」を年4回発行しているほか、CSR 報告書、CSR 報告会などでコミュニケーションをはかっています。

CSR 報告会「ありがトウナイト」を開催

2014 年念願の CSR 報告会を開催することができました。その名も「ありがトウナイト」。会場の定員の都合で、お招きできなかった方には大変申し訳ありませんでしたが、お陰様で約 100 名のお客様にご来場いただきました。私たちの取り組みを見ていただき、様々なご意見やご質問を直接いただくことができる貴重な経験となりました。

For the mutual understandings.

In CSR management system, being valued our activities by stakeholders cycles PDCA. So we think great deal of the cooperate communication. We issue the activity report “JO” 4 times a year and try to communicate through CSR report and meeting.

We held the first CSR meeting “Ariga Tonight”.

Finally, we could hold CSR report meeting in 2014. It is “Ariga Tonight”. We are sorry for people we couldn't invite because of the capacity of the place but about 100 customers came to, thanks to you. It was a precious experience to see our activity and receive opinions and questions.



ぼうさいえほんプロジェクト

partner 横浜市政策局共創推進室

「小さな命を守りたい」。未就学児向け防災マニュアル「ぼうさいえほん」の配布事業も今年で3年目を迎えました。2013年度は市内幼稚園に56,000部、2014年度は市内保育園・子育て拠点などに65,000部を配布。好評をいただくとともに、全国からお問い合わせもいただきました。その中で私たちが注目したのは、特別支援校からの「知的障がい、発達障がいの児童にイラストによる解説がとてもわかりやすい」とのご意見。そこで今年度も横浜市共創推進室にコーディネートしていただき、協賛企業の協力を得て、市内療育センター、特別支援校など知的障がいや発達障がいを抱える子どもたちが通う施設の、12歳以下の児童を対象に配布することにしました。前2年に比べて発行部数は少なく5,000部程度になる見込みですが、この取り組みによって1人でも多くの人の安全が確保できればと願っています。

“We want to save little lives.” The project issuing “the disaster prevention picture book” sees the third year in this year. We issued 56000 books to kindergartens in 2013, 65000 books to nursery schools and children rearing bases in 2014. It was well received and asked from the whole country. Especially, we eyed the opinion from special support school that is “Explanation using illustrations is easy to understand for mentally and developmental challenged children.” So in this year too, we decided to issue the book coordinated by Yokohama Kyoso to the under 12 year old mentally and developmental challenged children who go to establishment, for example nursing centers and special support schools in Yokohama. Compared to last two years, the circulation will be nearly 5000, but we hope that this project will bring safety to as many people as possible.

2014年度配布数一覧



配布先	配布数
市立保育所	8,846
民間保育所	45,106
横浜保育室	5,756
NPO 家庭的保育	426
小規模保育モデル事業	85
家庭保育福祉員	259
地域子育て支援拠点	1,800
親と子のつどいの広場	1,000
横浜市子ども青少年局等	1,500



2015.1.20 朝日新聞

協働事業

タツミのえほんプロジェクト

partner 株式会社タツミプランニング

横浜の未来を担う子どもたちの成長を応援するために、企業、学生、教育者が連携、オリジナル絵本を制作して横浜市内の幼稚園、保育園の子どもたちに届ける、株式会社タツミプランニング主催、弊社プロデュースのタツミのえほんプロジェクト。第一作目となる『とんとん ととん』をリリースしました。

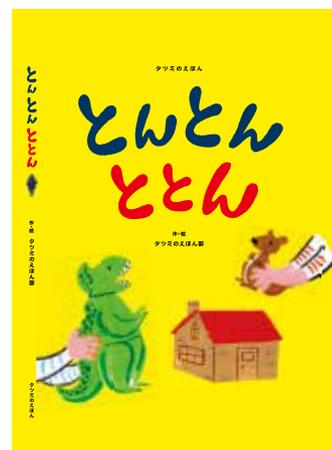
幼稚園教諭を目指す6名の大学生を“タツミのえほん部”プロジェクトメンバーに迎え、公益社団法人横浜市幼稚園協会協力のもと、ワークショップとミーティングを何度も行ってチームの結束を強め、みんなが納得する素敵な絵本を仕上げる事が出来ました。2月には鶴見短大附属三松幼稚園で園児への読み聞かせ、本物の大工さんによる工具の展示などとあわせ絵本の贈呈式を実施。子どもたちの歓声を肌で感じる事が出来ました。

In order to support the growth of children taking future of Yokohama, the project that companies, students and educators cooperate with each other to make original picture book to deliver kindergarten and nursery school children in Yokohama, is Tatsumi's Picture Book Project.

We released the first product, "Tonton Toton".

Joined six university students aiming to be kindergarten teacher in the project member, with the cooperation by Yokohama City Kindergarten Society, we did workshop and meeting many times to strengthen the unity of the team to finish pretty picture book everyone consent to.

In February, we held reading to children and presentation ceremony while the exhibition of tools of carpenters in Tsurumi Junior College Sansho Kindergarten. We were able to feel cheer of children.



かけはしジャーナルプロジェクト

partner 横浜デジタルアーツ専門学校
横浜市国際局

今年で4年目を迎えた横浜デジタルアーツ専門学校（YDA）との産学協働プロジェクト。今年のテーマは国際交流です。全日本印刷工業組合連合会（全印工連）では、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、国際交流を通じて全国各地を盛り上げようと「かけはしジャーナル」プロジェクトを企画。有名選手や大国だけでなく、開会式でしかテレビに映らないような小国と、全印工連会員企業の地元地域が、ジャーナル（情報紙）を通じて交流し、2020年を迎えようという試みです。

全国に先駆けて横浜で始まった交流の相手国は、西アフリカの「ベナン共和国」。ベナン最大の都市コトヌー市と横浜市が2013年に交流協力の共同声明を発表したのを受けて、民間レベルでの交流がスタートします。

YDAの学生たちが初めて知るベナンの情報を大使館や在日ベナン人から熱心に取材し、フランス語による横浜紹介号を発行。11月上旬にベナンを公式訪問した横浜市議訪問団を通じ、ベナン大統領やコトヌー市長に手渡していただきました。

今後は、1月の日本語によるベナン紹介号の横浜での発行を目指して、引き続き横浜とベナンの交流を深めていきます。

The industry-education cooperating project with YDA sees the forth year in this year. The theme in this year is the international exchange. AJPIA plans “Bridge Journal” project to liven up every region through the internal exchange toward Tokyo Olympic and Paralympic in 2020. Companies the members of AJPIA and its hometown interact the minor country we can watch on TV only in the opening ceremony through the journal to see 2020.

The first interaction in Yokohama is with Republic of Benin in West Africa. In response to the announcement of a joint statement of interactional cooperation Cotonou, the biggest city in Benin with Yokohama in 2013, the private interaction started too.

We heard the information that YDA students hadn't known from the embassy and Beninese in Japan to publish the book of the introduction of Yokohama in French. Visiting group of Yokohama city council visited Benin early in November handed it to the President of Benin and the Mayer of Cotonou.

From now on, we try to strengthen cultural exchanges of Yokohama with Benin to publish the book of the introduction of Benin in Japanese in Yokohama, in January.



各種認定

各種認定

環境に配慮した印刷方法、情報セキュリティへの対策、社会への貢献を継続し、お客様に安心して頂ける会社であり続けることを目指し、各種認定を取得しています。



E3PA 環境保護印刷（クリオネマーク） 認定

2006年2月 認定

<http://www.e3pa.com/>



グリーンプリンティング工場 認定

2007年6月 認定 2013年6月 更新

<http://www.jfpi.or.jp/greenprinting/index.html>



PISM 印刷業情報セキュリティマネジメントシステム 認定

2013年3月 認定

<http://www.kanagawapia.or.jp/pism.html>



横浜型地域貢献企業 認定

2009年3月 認定 2015年3月 更新

<http://www.idec.or.jp/keiei/csr/>



全印工連 CSR ツースター 認定

2015年6月 認定

<http://www.aj-pia.or.jp/csr/main.html>



2015CSR報告書

発 行：株式会社協進印刷

発行日：2015年11月19日

〒221-0003 横浜市神奈川区大口仲町108

TEL.045-431-6611 FAX.050-3730-6273

<http://www.kyoshin-print.co.jp>

見返しの写真について

表：JR 大口駅西口

裏：大口公園（通称：ハトの公園）





<http://www.kyoshin-print.co.jp>